

Y2-37

SPP導入を機に行った知識共有の試み

さいたま赤十字病院 形成外科外来¹⁾、
さいたま赤十字病院 形成外科²⁾
○荒巻 佑里¹⁾、宇田川 育子¹⁾、源川 詠子¹⁾、
時田 早紀¹⁾、大内 邦枝²⁾

【はじめに】当院では各種委員会活動などがあるにもかかわらず、医師・看護師ともに各病棟・各科のみの視点で患者を診る傾向があり、入院理由の臓器に限局したケアのみが行われがちである。フットケアが必要な患者は広く存在するが、実際適切な処置・指導が行われていない現状がある。今回SPP（皮膚環流圧測定器）導入を機に、フットケア・PAD・SPPの知識を深めるための勉強会を行い、チーム看護に必要な共通認識と理解を深める試みを行った。

【方法】フットケア・PADに関するビデオ講演、看護師を主体としたSPPの使用目的・方法に関する説明の実施。アンケートの配布・集計・分析。アンケートの内容は、PAD・SPP・フットケアなどの用語に対する知識の有無を始め、今後これらの内容について継続的勉強を行う興味があるかなどを選択肢方式で行った。

【結果】アンケート回収率は64.4%。勉強会以前から各種用語を知っていた人は10～40%、知らないと答えた人は60～90%であった。勉強会に参加して、PAD・フットケア・SPPに関して興味を持った人は96.8%で、今回の勉強会について理解できた人は75～87%であった。今後も継続して勉強していきたいと答えた人は、87～94%であった。

【考察】参加者の大多数から今回の勉強会によりフットケアについて興味を持ち、今後も勉強会に参加して知識を深めたいという意欲的な回答が得られた。広い視野、知識で全人的に患者を観察し看護を行っていくことが、看護の質の向上につながっていく。真のチーム医療を行うために、今後も継続的に勉強会を行い、知識向上と共有理解を図っていききたいと考えた。

Y2-38

全看護職員に対する「メンタルヘルスケア研修」の導入評価

盛岡赤十字病院 看護部
○及川 千香子、村川 陽子、北村 和子

【はじめに】A病院看護部では、2002年度からバーンアウト予防、「動機・やる気」を引き出すためチャレンジシートでの目標管理を導入した。各部署の看護管理者は、面談を繰り返し行ない、メンタルヘルス対策、ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、職場環境づくりに努力している。2008年看護部目標に「働きやすく、魅力ある職場環境を整備する」を挙げ、行動計画としては、病院・看護部の組織的システムを含めた「メンタルヘルスケア」について全看護職員を対象に、看護部長による集合教育を実施、結果をまとめ、示唆を得たので報告する。

【研究方法】1、対象：全看護職員323名 2、調査方法：7月に集合教育を実施。同年12月に理解度・活用状況等アンケート調査を実施。回収率93.2%

【結果・考察】12月アンケート調査結果、「メンタルヘルスケアの理解」について、セルフケアの内容について81%が「判った」と答えた。感想には、セルフケアを上手くする事でモチベーションも変わる。自分でもやれそうと思った。等が挙げられる。また、「ストレスとは何か」「自己対処法・自己チェック法」が理解でき、73%が「活用できた」と答えた。感想には、日頃からメンタルヘルスケアをする必要性が判った。あまり考えすぎても頑張り過ぎてもいけないと思った。等が挙げられる。しかし、「支援体制」の理解については45%が理解できないと答えた。当院では職場長→看護部→産業医又は職場長→看護部での個人面談後精神科受診では敷居が高く、現実的でない。気軽にカウンセリングできる窓口やサポートシステムが欲しい。との意見があった。また、管理者自身のメンタルヘルスケア対策も今後の課題であると考えた。